

令和3年度

福岡県移住者子弟留学報告書

---

2021 Exchange Students Program for  
Descendants of Immigrants from Fukuoka Prefecture

C o m p l e t i o n R e p o r t

Fukuoka International Exchange Foundation

公益財団法人福岡県国際交流センター

---

02

江上 リサ あゆみ（ブラジル福岡県人会）

九州産業大学造形短期大学部

07

宮園 豊光（在ポリビア福岡県人会）

九州産業大学 芸術学部



ブラジル福岡県人会  
江上 リサ あゆみ  
九州産業大学造形短期大学部

私が県費留学生になろうと思ったのは母のおかげです。母は若い時県費留学生として日本へ行ったことを話してくれました。最初のところあんまり興味ありませんでしたが、この一年を通して色々な経験できたことを感謝しています。そして、おじいちゃんやおばあちゃんの祖国福岡を知ることが出来てとても嬉しいです。

私が初めて日本へ母と一緒に来たのは2016年です。その時兄が住んでいる名古屋へ最初に行きました。その後東京へも行きました。長野県に住んでいる親戚も訪問しました。福岡へも来ました。福岡で母が留学した時お世話になった方を訪ねて吉井町まで行きました。2019年にウニセズマル大学のファッション学科を卒業しました。大学在学中ファッションのアルバイトをしていました。

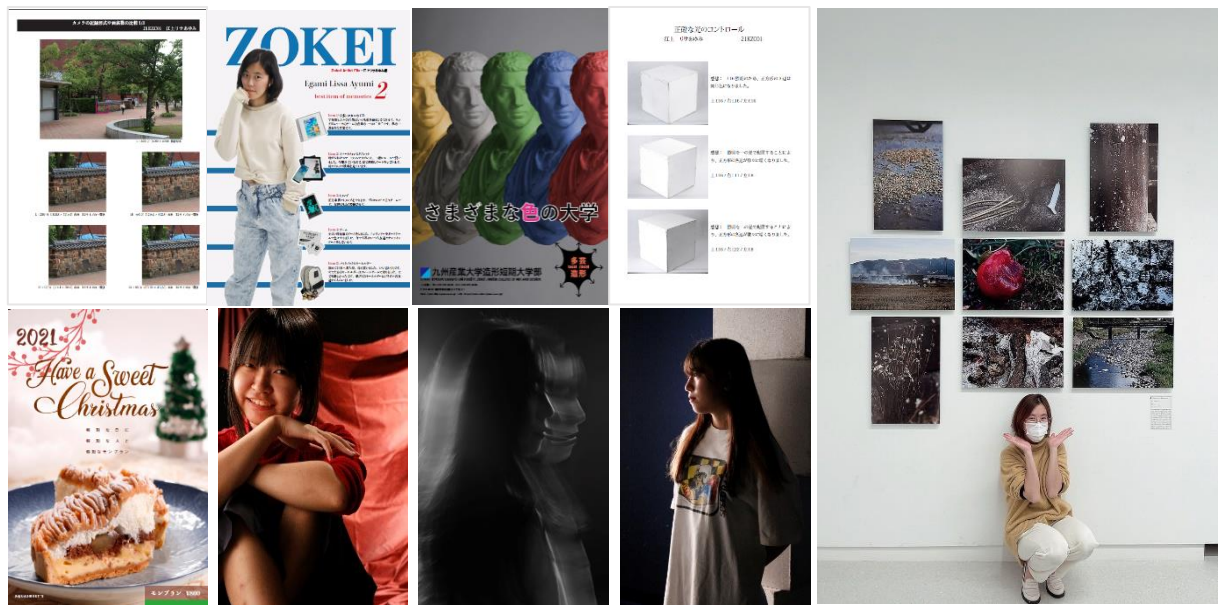
県費留学生になるためのテストを受けに行ったら、子供時代の友達と出会いました。彼女も県費留学生のテストを受けて合格しました。しかし日本へ行く直前に新型コロナウイルスが発生し日本に行くのに一年間待ち2020年に日本へ行くことが出来ませんでした。そのため次の年にまた応募しましたが日本へ行けるか行けないかとても不安でした。2021年4月末におかげさまで日本へ行くことが出来ました。出発の日が突然決まったので旅のしたくを急いでしました。友達ともお別れすることが出来ませんでした。飛行機に乗ると人がとても少なかったです。20人弱ぐらいだったと思います。日本の羽田空港に着いたら15日間の隔離をしました。その期間時差ボケを直しました。福岡へは5月8日にやっと来ました。

## 生活

福岡での私の生活は終わりに近づいています。時間はとても早く過ぎました。私は出来るだけ色々な経験をしました。最初のころはちょっと寂しかったです。なぜなら福岡では新型コロナウイルスに係る緊急事で外出が出来ませんでした。そして知り合いもいませんでした。時間が経つにつれて大学で友達が出来ました。彼らと色々お話が出来てとても楽しかったです。寮がある所を知るためにスーパーやお店へ歩いて行きました。何も出来ない日もありましたが、友達と福岡の街を見物する日もありました。

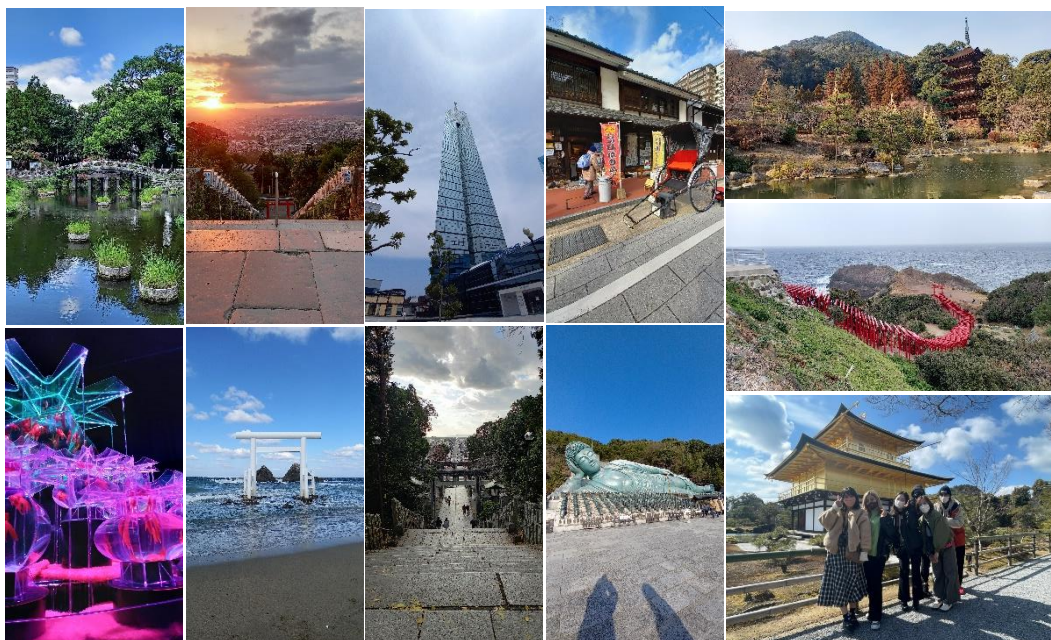
## 勉強

大学の勉強は私がいつも興味があった写真を選びました。大学での勉強はとても興味深く私の知識のプラスになりました。カメラの扱い方の基本の復習と新しいソフトウェアの使い方を学び写真部門についてもっと深く勉強が出来ました。例えば、営業写真、写真研究、ワークストックフォト、などなど。後期には卒業論文も作成するチャンスがありました。テーマはブラジルへ移民した曾祖父のルーツにしました。その場所へ行って、写真を撮っていたら懐かしい感じがしました。そこが私の祖国のようでした。感動しました。



## 旅行

夏休みには新型コロナウイルスのため旅行することが出来ませんでした。福岡の事をもっと知るため観光地やお祭りへ行くことにしました。冬休みには他の県へ行くことが出来ました。大学の友達と山口と京都へ行きました。そこでは観光地に行きました。旅館の予約や食事を決めたり、どこへ行くか決めたりするのがとても楽しかったです。



## 部活

大学の友達のおかげで茶道の部活に入部することが出来ました。最初は見学だけでしたが、入部するように誘われましたので入部しました。日本文化の1つである茶道を覚えることはとても興味深かったです。お茶を立てる儀式はとてもエレガントで道具の扱いはとても丁寧だと感じました。卒業の茶会に参加しました。初めてお客様の前でお茶を立てたのでとても緊張しました。皆さんが上手にできましたよと言ってきて、安心して嬉しかったです。茶会の後で卒業生たちにプレゼントが送られたのでとても嬉しくて、感動しました。私は一生大切にします。



## 家族会

家族会の皆様とも出会うことが出来ました。家族会は留学生たちに日本の文化を紹介してくれました。一番初めの体験は大滝さんがしてくれ浴衣の着方を習いました。何回か着付けを習いに行きました。最後の日にお店の皆様とお茶会をしました。浴衣の着方を覚えたのでとても楽しかったです。でも夏の祭りがありませんでしたので、残念ながら浴衣を着るチャンスがありませんでした。もう一つワクワクしたイベントは苺狩りでした。お腹いっぱい甘い苺を食べました。1月末に、お茶会に参加しました。そこでは着物を着せてもらいました。私が選んだ着物はとても素敵でした。お茶会の場所は日本建築やお庭はとても素晴らしかったです。久留米に住んでいる山崎さんが八女市の有名な場所に連れていってくれました。八女は抹茶で有名な所です。そこで飲んだお茶はとっても美味しかったです。



## 国際交流センター

県費留学生として福岡で1年住むチャンスをいただいたことに感謝しています。色々な経験が出来自分の興味の文化の勉強ができ、更に曾祖父の祖国を知ることが出来ました。この1年間にはいくつかの行事がありました。例えば、子供用のオンライン日本語クラス、チラシの翻訳、それらは私の日本語の勉強になりました。福岡県の副知事に会って、福岡での生活や、大学の勉強のお話をしました。最後にこの機会を下さったことを感謝しました。



ブラジルに戻ったら、またファッションプロデューサーの関係を続けたいと思っています。大学で学んだことは自分の趣味にしたいと思っています。ブラジル県人会のことは、今サンパウロから離れているので、いつでも手伝いを出来るわけではありませんが、サポートをしたいと思っています。

ありがとうございます！



在ボリビア福岡県人会  
宮園 豊光  
九州産業大学芸術学部

ボリビアの県人会から来ました、宮園豊光と申します。私はサンタクルス市で生まれ、大学は2020年に社会コミュニケーション学部を卒業しました。母国では、写真家とYouTuberでありながら、妹と一緒にピーナッツバターやピーナッツ豆腐を作る会社を運営しています。

私の母国語はスペイン語ですが、英語とポルトガル語も話せます。私の日本語は、まだ未熟ですが、一生懸命頑張って勉強しています。日本に入国するのは、今回で3回目になり、福岡へ来るのは、初めてです。母と祖父母の出身地は、福岡です。

私の家族は、両親、兄、私と双子の妹です。父はボリビア人で、母は福岡県八女市黒木町で生まれました。福岡出身の祖父母は、1968年にボリビアの移住地（サンファン）へ、3人の子供と一緒に移住しました。

福岡県移住者子弟留学生制度のおかげで、自分のルーツである福岡や母方の祖父母が生まれた場所について色々学ぶ事ができました。

コロナウイルスの大流行で難しい決断でしたが、県費留学生として福岡へ来日し、ルーツの事をもっと知り、日本語も学ぶ良い機会なので、それが大きな目標となりました。こんなに家や妹と離れるのは初めてで、最初はとても大変でしたが、やがて慣れてきて、自分一人で色々な事をする様になりました。

九州産業大学の芸術学部で写真とビデオの勉強をしました。毎日自転車で大学に通い、約15分掛かっていました。私の日本語は余り上手じゃないので、普通の授業よりも実習のある科目だけを選ぶことにしました。

当初はMacシステムパソコンの上、日本語での操作なので、大学のパソコンを使うのはとても難しかったです。写真撮影の授業では、財布、服、お菓子やおやつなどの様々な物の写真を撮ったり、プロの写真照明、写真スタジオツール、背景などの使い方も学びました。



私が選んだ科目では、英語やスペイン語を話す人は誰もいませんでしたが、観察することで、何をすれば良いのか見習って、なんとか授業の課題を仕上げる事もできました。ポートレート写真の撮り方を学ぶ授業で何度か同僚の為にモデルになりました。同じ言語を話さなくても、モデルになり、写真家と繋がることで沢山学んでとても楽しみました。

卒業研究では、日本での生活と日本文化についての作品を制作しました。「福岡での生活体験からラテンアメリカ人に日本文化を紹介」というテーマを設定し、日本でのお土産の文化、美食体験、日本のマナーなどを紹介するビデオをいくつか制作もしました。

コロナウイルス禍は、中々治らないが、夏休みを利用して大阪、京都、東京へ旅行しました。もちろん、私は常に用心して行動しました。日本に住んでいるうちに感染した事はありませんでした。事前に旅行チケットを購入し、オンラインでホテルの予約をした事で、安い値段で手に入れることが出来ました。

大阪では、道頓堀を訪れ、有名なグリコの看板の前で写真を撮り、お好み焼きとたこ焼きを食べ、大阪城の難波神社を訪れ、「りくろーおじさん」の有名なチーズケーキを食べました。街の美しい景色を望む超高層ビル、梅田スカイビルも気に入りました。夏休みは緊急事態宣言になっており、多くの店舗が閉鎖されていたため、街は少し悲しい雰囲気でしたが、私は楽しむことができました。

京都では、嵐山竹林、稲荷大社、金閣寺、祇園近郊、清水寺を訪れました。

大阪から夜行バスで東京まで行きました。東京では、渋谷スカイに上り、私にとって日本で一番大好きな光景となりました。東京タワー、渋谷エリアや上野も訪れることが出来ました。叔父さんや友達と出逢い、日本人や外国人の新しい友達も作ることも出来ました。

この旅行は本当に楽しかったです。一人で日本を旅行したのは初めてで、最初は心配でしたが、一人で移動して、日本語での会話の練習になり、今まで以上に理解し、自分自身の上達に気づきました。

国際交流センターのイベント・セミナーで講師として参加させて頂き、各国の福岡県人会の子供たちのために、日本語、スペイン語、英語、ポルトガル語で日本文化を2つのオンラインクラスで発表しました。

世界を感じさせる為に作られてる「こくさいひろばカフェ」のイベントにも講師として参加し、県民の皆さまや、福岡県人会の人たちにも自分の国のプレゼンテーションをしました。とても緊張しましたが、なんとか日本語が話せました。

家族会のおかげで、柿の収穫やいちご狩りの体験をして、博多の歴史も沢山知る事が出来ました。

福岡ではたくさんの美しい場所を知り、ボリビアにいた頃はラーメンが苦手だったけど、福岡豚骨ラーメンを食べて変わりました。美味しくて、いつも食べたいです。

友達や先輩のおかげで、福岡をととても楽しむ事が出来ました。とても感謝しています。そして、彼らを迎えることができるととても幸運に思っています。

この留学を通して、大好きな体験の一つは着物着付けの茶道体験でした。店内の着物はどれも綺麗だったので決めにくかったです。茶道体験では、細かいところが多くて緊張して集中していました。日本文化について、もっと学ぶことができると本当に楽しかったです。

ボリビアの帰国後、YouTube チャンネルを続け、写真やビデオを撮り続け、自分の作品を日本とボリビアの文化を繋ぐ架け橋として利用したいと思います。また、福岡県人会の子孫たちがこのプログラムに興味を持つために協力し、参加する様に励ましていきたいと思っています。

私が日本で制作したビデオが、ボリビア福岡県人会のメンバーのみならず、チャンネルの視聴者の皆さまに福岡と日本の文化について、色々学ぶための招待状になる事を願っています。



教授 佐藤 慈  
(宮園指導教授)

宮園さんはとても向上心のある学生です。自分の関心のある写真や映像分野の授業に数多く参加し、たくさんの知識や技術を吸収しようと真面目に授業に取り組んでいました。私が担当していたモーション・グラフィックスの実習では、専門的な動画編集ソフトウェアを使用して課題作品を制作する必要があったのですが、授業用テキストが日本語であるにも関わらず、自分で翻訳しながら一生懸命作品を制作していました。

自分でテーマを決めて作品を制作する「卒業研究」という4年生の授業にも参加しました。宮園さんは、「福岡での生活経験を通してのラテンアメリカ人への日本文化の紹介」というテーマを設定し、日本のお土産文化、外食文化、ファッション、温泉などについて動画を制作しました。現地での取材も丁寧に行い、日本人ではなかなか気が付くことが出来ない視点から、日本文化の特性について考察を行いました。制作された動画はYouTubeで公開され、ラテンアメリカの方々に日本文化を知ってもらうきっかけとなることが大いに期待されます。

授業では、取材に基づいて分析した結果をスライドにまとめ、日本語でプレゼンテーションも行いました。宮園さんの母国であるボリビアの文化や生活習慣と比較しながら、日本文化の特殊性について分かりやすく説明してくれました。日本人学生との意見交換を通じて、お互いの文化や考え方の違いについて理解を深めることができ、とても有意義な時間となりました。

コロナ禍ということもあり、思うように活動できないことも多かったと思いますが、宮園さんはいつも明るく前向きな姿勢で授業に取り組んでいました。最初にお会いしたときに比べて、日本語もかなり上達しており、研究室の学生と楽しく会話している姿も見られました。今回の留学をきっかけとして、日本とラテンアメリカをつなぐ架け橋となっただけのことを期待しています。